

場面③富士山――

訳18富士の山を見ると、五月の末に、雪がたいそう白く降り積もっている。

訳19時しらぬ

時季をわきまえない

山は富士の嶺(ね)

山は富士山

いつとてか

今をいつだと思つて

鹿(か)の子まだらに

鹿の子模様のようにまだらに

雪の降るらむ

雪が降っているのだろう

問一 季節はいつか。(当時は一年

の始まりが春からになつていて、当時のカレンダーは、春の頃に一―三月を、夏の頃に四―六月を、秋の頃に七月―九月を、冬の頃に十―十二月を割り振って作られていた。)

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

訳19時しらぬ

時季をわきまえない

山は富士の嶺(ね)

山は富士山

いつとてか

今をいつだと思つて

鹿(か)の子まだらに

鹿の子模様のうにまだらに

雪の降るらむ

雪が降っているのだろう

問二 「鹿の子模様」の説明として

正しいものはどれか。

ア鹿の子が雪景色の中に点々という
様子を模様にしたもの。

イ鹿の子の茶褐色の背中の白い斑点
を模様にしたもの。

問三 「今をいつだと思つて」とあ
るが、この「思う」の主語
は？

ア歌を詠んでいる人

イ伊勢物語の語り手

ウ富士山 エ神様 オ地元の人々

訳19時しらぬ

時季をわきまえない

山は富士の嶺(ね)

山は富士山

いつとてか

今をいつだと思って

鹿(か)の子まだらに

鹿の子模様のようにまだらに

雪の降るらむ

雪が降っているのだろう

問四

「今をいつだと思って…雪が降っているのだろう」とあるが、これは次のどちらか。

ア 伝統文化を破壊する者に対する怒りを表している。

イ 見慣れぬ光景に対する驚きを表している。

